

呈します。ときに、リンパ節周囲にまで炎症が波及し痛みを伴うことがあります。

(3) 腫瘍

悪性リンパ腫や癌のリンパ節転移がこれに相当します。リンパ節は通常より硬く、とくにリンパ節転移の場合は「石のように硬い」と表現されます。圧痛はないか、あっても軽度なことが多いですが、急激な増大による皮膚の伸展や出血、壊死があると疼痛や圧痛が強くなります。初期は局所性の腫脹を示しますが、疾病の進展とともに次第に全身性に移行します。

(4) その他

上記以外のものとしては、サルコイドーシスによる肉芽腫性変化や先天性代謝異常などによる脂質の蓄積などが挙げられます。

3. リンパ節腫脹時の問診

リンパ節腫脹があるときに重要な問診項目は、①局所症状、②全身症状、③原因暴露、④服薬歴です。

(1) 局所症状

リンパ節腫脹の最も一般的な原因は感染症です。感染であれば感染の局所症状がみられるはずで、鼻汁、咽頭痛、咳嗽、腹痛、腰痛など、局所の感染症状を検索します。また、悪性腫瘍の場合も局所の疼痛や血痰、血尿などが起こります。

(2) 全身症状

発熱、体重減少、盗汗などの全身症状を検索します。とくに夜間の発熱は悪性リンパ腫や結核、ステイル病などによくみられます。悪性疾患や結核では体重減少が著明となる場合があります。

(3) 原因暴露

猫などのペット飼育、ダニの刺咬、生食などのほか、性行動や旅行なども重要です。

表2 リンパ節腫脹を起こす薬剤

降圧薬	アテノロール
	カプトプリル
	ヒドララジン
抗菌薬	ペニシリン系
	セファロスポリン系
	サルファ薬
その他	アロプリノール
	スリンダク
	金製剤
	フェニトイン
	カルバマゼピン
	ピリメサミン
	キノジン
プリミドン	

(4) 服薬歴 (表2)

薬剤性のリンパ節腫脹は必ず鑑別診断として考えておかなければなりません。最近の薬物歴は必ず聴くようにしましょう。

4. リンパ節の触診法

体表から触知できるリンパ節は、①頭頸部、②腋窩、③肘関節上部、④腹部、④鼠径部(大腿部)、⑤膝窩部です。触診で評価不能となる主なリンパ節には縦隔リンパ節があります。腹部は腹壁から触診しますので、比較的大きなものでないとわかりません。他の表在リンパ節の触診は基本的に同じ手法の応用となります。

リンパ節は皮下に存在するため、皮膚を動かしても皮膚と一緒に動くことはありません。そのため、示指から環指の指腹を皮膚に軽く密着させ、皮膚を動かすことにより触診します(図1)。このとき、押さえ方が強いとリンパ節によるデ

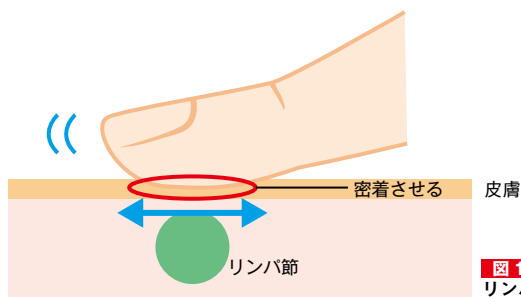


図1 リンパ節触診の基本

コボコ感を触知しにくくなるため、できるだけ軽く皮膚と指が滑らない程度に抑えるのがコツです。皮膚を動かす方向は、たとえば上下方向に皮膚に張力が掛かっている頸部では、主に前後方向に動かします。

(1) 頭頸部リンパ節 (図2・表3)

上気道感染症をはじめとして、頭頸部は最も多く診察されます。細菌性咽頭炎の場合は扁桃リンパ節から胸鎖乳突筋周囲のリンパ節にかけての前頸部リンパ節群の疼痛性腫脹が、重要な所見となります。鎖骨上窩リンパ節は乳房や縦隔など胸部疾患を反映しますが、左鎖骨上窩リンパ節は胸管を介しての腹部疾患との関連も重要です。胃癌のVirchowリンパ節転移は有名ですね。

リンパ節の触診は患者と対面位で行います。リンパ節の診察は両側を一度にせず、必ず片方ずつ行います。人の意識は必ず左右どちらかに集中します。また、胸鎖乳突筋の裏側にあるリンパ節は胸鎖乳突筋の裏に指を入れて指腹で探るように触診してください (図3)。

鎖骨上窩のリンパ節は鎖骨胸骨端の直上部から指腹を鎖骨の裏側に差し込むようにし、徐々に外側に向かって触診します (図4)。この際、患者に息こらえ (バルサルバ手技) をしてもらえると触診が容易になります。

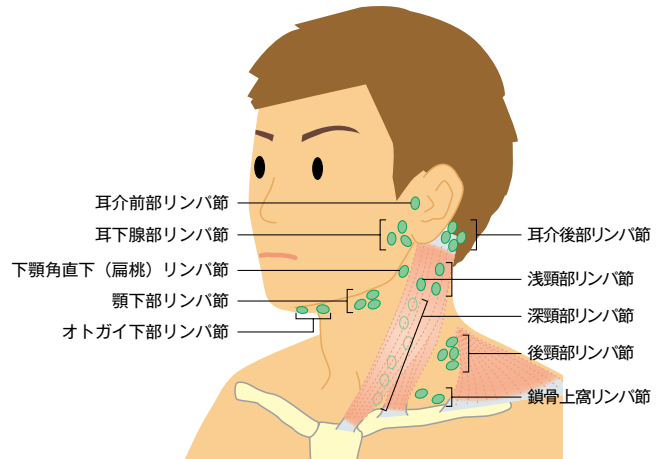


図2 頭頸部リンパ節の位置

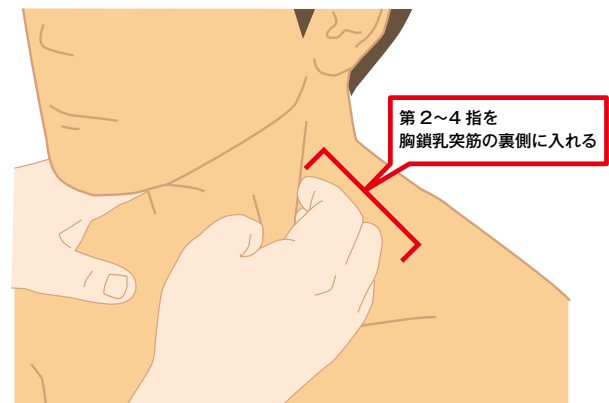


図3 胸鎖乳突筋深層リンパ節の触診

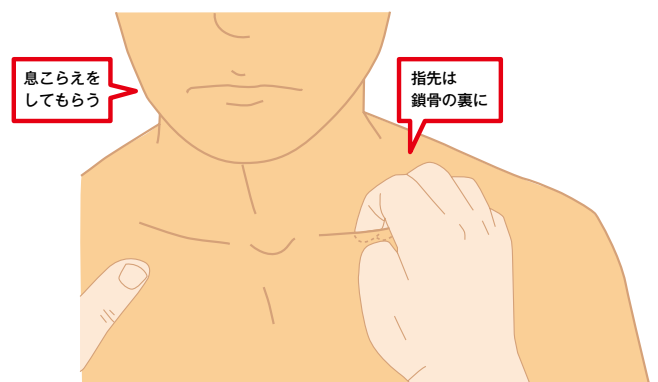


図4 鎖骨上窩リンパ節の触診

表3 頭頸部リンパ節腫脹のリンパ流と鑑別診断

リンパ節	上流の領域	よくみられる疾患
顎下部	舌, 顎下腺, 舌, 口腔, 結膜	頭頸部感染症 (副鼻腔, 眼, 耳, 頭皮, 咽頭)
オトガイ下部	下口唇, 口蓋底, 舌尖, 頬部	伝染性単核球症または単核球症型症候群, トキソプラズマ症
下顎角直下 (扁桃)	舌, 扁桃, 耳介, 耳下腺	咽頭炎, 麻疹
後頸部	頭皮, 頸部, 上肢皮膚, 頬筋, 胸郭, 頸部および腋窩リンパ節	結核, リンパ腫, 頭頸部悪性腫瘍
後頭部	頭皮	頭皮感染
耳介後部	外耳道, 耳介, 頭皮	外耳および頭皮の感染症
耳介前部	眼瞼, 結膜, 側頭部, 耳介	外耳道
右鎖骨上窩	縦隔, 肺, 食道	肺・後腹膜および消化器癌
左鎖骨上窩	胸郭, 腹部	リンパ腫, 胸郭および後腹膜の癌・感染症